

授業科目名・形態	母子保健活動論 演習	必修・選択の別	選択	単位数	1
科目担当者氏名	藤田 碧	実務経験の有無	有	開講期	3年前期

【授業の主題】

母子保健分野における保健活動の歴史的な変遷や現在の施策及び動向を踏まえて、対象の健康レベルに応じた健康の保持増進、健康の回復・改善、疾病予防対策の支援方法や技術を学ぶ。

【到達目標】

1. 母子保健活動の歴史的変遷、現在の動向や施策を理解できる。
2. 母子保健活動の現状を把握し、対象者への支援（保健活動）を理解できる。
3. 母子保健における地域の支援体制や社会資源を考えることができる。

【授業計画・内容】 活動の根拠となる法律・制度および基礎知識

- | | |
|------|---|
| 第1回 | 母子保健の理念、活動の根拠となる法律・制度の変遷と現行の制度 |
| 第2回 | 母子保健の健康関連指標の動向 |
| 第3回 | 主な関係法規と母子保健・子育て支援に関する施策 |
| 第4回 | 妊娠期前後の健康課題と支援（プレコンセプションケア、妊娠期） |
| 第5回 | 妊娠期からの切れ目のない支援Ⅰ（妊娠期から産前産後の支援・新生児期） |
| 第6回 | 妊娠期からの切れ目のない支援Ⅱ（乳幼児の発育・発達と養育 など） |
| 第7回 | 妊娠期からの切れ目のない支援Ⅲ（乳幼児健康診査） |
| 第8回 | 妊娠期からの切れ目のない支援Ⅳ（育てにくさを感じる保護者への気づき） |
| 第9回 | 妊娠期からの切れ目のない支援Ⅴ（主に児に由来する育てにくさへの支援 医学的要因） |
| 第10回 | 妊娠期からの切れ目のない支援Ⅵ（主に児に由来する育てにくさへの支援 社会性の発達） |
| 第11回 | 妊娠期からの切れ目のない支援Ⅶ（主に保護者や環境に由来する育てにくさへの支援） |
| 第12回 | 妊娠期からの切れ目のない支援Ⅷ（リスクを感じる親子への支援体制） |
| 第13回 | 妊娠期からの切れ目のない支援Ⅷ（リスクを感じる親子への支援技術） |
| 第14回 | 母子保健における地域の支援体制（子どもの健やかな成長を見守り育む地域づくり） |
| 第15回 | 母子保健における地域の支援体制、 個から地域への支援体制構築 |

【授業実施方法】

講義、演習

【授業準備】

母性看護学や小児看護学で学んだ内容を復習して講義に臨む。講義後は学修内容を復習する。

【主な関連する科目】

「母性看護学」「小児看護学」、「公衆衛生看護学実習Ⅰ・Ⅱ」などの公衆衛生看護学の科目

【教科書等】

岡本玲子ほか：公衆衛生看護学テキスト第3巻 公衆衛生看護活動Ⅰ 第2版 医歯薬出版株式会社 2022
厚生統計協会編「国民衛生の動向 2022/2023年」2022年

【参考文献】

山崎嘉久ほか：標準的な乳幼児期の健康診査と保健指導に関する手引き、あいち小児保健医療総合センター,2015
国立成育医療研究センター：改訂版乳幼児健康診査身体診察マニュアル,2018

【成績評価方法】

受講態度等（5%）、提出課題（30%）、定期試験の成績（65%）による総合評価

【実務経験及び実務を活かした授業内容】

行政保健師、NPO でのハイリスク児支援の経験や、愛着形成支援プログラムの指導者資格を活かした活動経験があります。これらを通じて、全ての親子が健やかに生きる社会をつくるうえで主要な役割を果たす地域親子保健部門の役割を学び、ともに考えて力を得る授業となることを目指します。

【学生へのメッセージ】

2年生までの関連科目を復習して授業に臨みましょう。特に、母性看護学・小児看護学で学んだ内容を基礎として、授業を展開していきますので、関連する項目を復習して授業に臨みましょう。